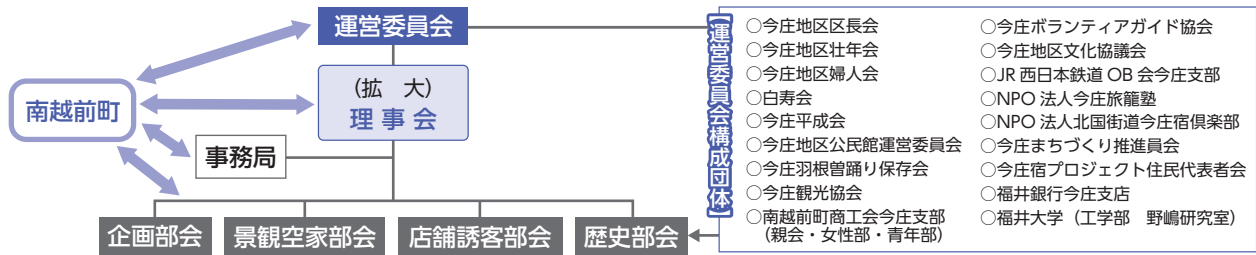


今庄宿プロジェクト

今月号から今庄宿プロジェクト協議会の活動内容とともに「今庄宿」にまつわるお話を連載していきます。

★今庄宿プロジェクト協議会の組織体系(平成 28 年 5 月～)



★今庄宿プロジェクト協議会の新しい理事や監事が決まりました。

会 長: 田中 浩和さん

副会長: 寺木 利和さん、細川 治さん、上山 優美さん

理 事: 畠山 拓也さん、熊谷 好晃さん、高谷 直樹さん、
貢 繁幸さん

監 事: 島崎 和臣さん、南出 政一さん

協議会は企画部会、景観空家部会、店舗誘客部会、歴史部会の4つの部会で構成されています。

協議会の委員は全員がいずれかの部会に属し、部会の会議は本業の仕事を終えた午後7時半頃から始まります。

そのほかにも協議会イベントの準備や協議会運営などについて話し合う理事会や拡大理事会、運営委員会が別途開催され、「今庄宿」をテーマにしたまちづくりの熱い議論は夜遅くまで及ぶこともあります。

★今庄宿プロジェクトを将来にわたり運営する一般社団法人を設立します。

“今庄宿”豆知識 その1

「越ノ国」の入り口だった“今庄”

現在の福井県から新潟県信濃川周辺までの一帯を大和政権では「越」と呼び、大化の改新によって「越ノ国」という地方行政組織が整備されました。

日本書紀には646年(大化2年)に改新の詔によって「越ノ国」が整備されたと記されています。その「越ノ国」の入口「越路の口」と呼ばれた地域が“今庄”です。

その後、持統天皇の時代に越ノ国は越前・越中・越後の3か国に分けられました。

公式ホームページ公開中です。

<http://www.kitokke-imajo.org/>

きとけ今庄
今庄宿プロジェクト

検索

■問合せ 観光まちづくり課 ☎ 47-8013

旧北陸線トンネル群は、難から多くの人を集めています。この鉄道開通120周年と歩調を合わせたように、鉄道遺産が全国から脚光を浴びています。旧北陸線のトンネル群が国の登録有形文化財に登録されたこともきっかけとなり、最近では、鉄道遺産ウォークツアーやバスツアーなどで関西、中京から多くの人を集めています。

明治29年7月15日、敦賀ー福井間に鉄道が開通してから、今年で120周年を迎えます。また同時に開業した「今庄駅」は、今庄ー敦賀間の難所に挑む基地として、なくてはならない存在でした。今庄駅では北陸線初の「立ち売り」や今庄そばの発祥である「立ち食いそば」が開設されるなど、今庄は「宿場町」から「鉄道の町」として大変賑いました。

所の木ノ芽峠越えを達成するためにつくられた鉄道隧道であり、レンガ、石積み構造のトンネルを始めスイッチバックの折り返し退避線の遺構など当時の高い技術を物語る貴重な鉄道遺産であります。このように当時のままトンネル群が現存するのは全国的にも非常に珍しいのです。また今庄駅においても、蒸気機関車へ水や石炭を補給するための給水塔や給炭台が現存し、鉄道の町として賑った面影を残しています。

そして今、これらの遺産を地域の歴史を語る貴重な文化財として後世に受け継ぎ、さらには観光素材として、観光協会や今庄宿プロジェクトなど地元団体が中心になって鉄道遺産を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

■問合せ 観光まちづくり課

☎ 47-8002

鉄道遺産に注目

鉄道開通120周年を迎える今



旅行会社が主催した鉄道遺産ウォークツアー (約600人の方が参加されました)



転車台でのD51の様子(今庄駅)